

中国語教育学会会報

第 20 号 (通巻 45 号) 2007 年 6 月 20 日発行

〒562-8558

大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

大阪外国語大学中国語学研究室内

中国語教育学会

HP <http://www.jacle.org/>

Email ch_teaching@yahoo.co.jp

郵便振替口座 00110-1-191152

- (1) 第 5 回全国大会、会員総会報告
- (2) 第 6 回全国大会予告とシンポジウムテーマの募集
- (3) 研究会・講演会のお知らせ、研究発表の募集
- (4) 「第八屆世界華語文教学研討会」参加報告……西香織 (北九州市立大学)
- (5) 会員名簿作成のためのデータ提出のお願い
- (6) 事務局からのお願い

(1) 第 5 回全国大会、会員総会報告

2007 年 5 月 12 日 (土)、13 日 (日)、関西大学 (大阪府吹田市) を会場として、本学会設立 5 周年記念の第 5 回全国大会を開催し、第 1 日めに国際シンポジウム、第 2 日めに研究発表会を行いました。今大会は高等学校中国語教育研究会と初の合同大会として開催したもので、両会から併せて約 300 人の参加を得て盛会となりました。

【会員総会報告】司会：大川完三郎理事、加藤晴子理事。

(1) 一般報告

(1-1) 会員動向について

古川会長から、理事会開催時における会員総数は 401 名であるとの報告があった。

(1-2) 名誉会員について

古川会長から、内規に基づき名誉会員候補者 11 名；泉興長、榎本英雄、大河内康憲、金丸邦三、輿水優、小林立、高橋均、中山時子、橋本南都子、長谷川良一、渡辺晴夫 (敬称略、50 音順) の推薦があり、了承された。

(1-3) 学会誌『中国語教育』第 5 号の発行について、2007 年 3 月 31 日付けで 600 部印刷、会員には宅急便で送付済みであることが報告された。ただし、50~60 冊の届け先不明による戻りがあり、再送付の手間もきわめて煩雑なため、会員諸氏には住所変更の届けを漏れなくしてもらいたいとの要請があった。

(2) 会計報告

森幹事より、2006 年度決算、2007 年度予算案の監査終了について報告があった。また、次回会費徴収分から振込手数料を会員負担とする提案がなされ、承認された。

(3) 次期役員選挙

古川会長から、次期役員 (会長・理事) の選挙については 2007 年 11 月郵送にて実施、12 月理事会にて承認とする予定が報告された。

(4) 2008 年度第 6 回全国大会開催校について

次回開催校の立候補がなかったため、古川会長より北九州市立大学が推挙され、満場一致で承認された。北九州市立大学を推挙する理由として「これまでの大会はすべて東京で

の開催であったが、今回はじめて東京を離れ大阪で開催することができた。次回は、更に裾野を広げる意味で九州地区においてぜひ開催したい」との意向が表明された。次回大会開催校を代表して王占華理事（北九州市立大学）より挨拶があった。

（５）支部例会の開催依頼について

古川会長より本年度も引き続き関東地区、関西地区での例会開催の依頼があった。加えて、次回大会が開催される九州地区でもぜひこの機会に一度例会を開きたいとの要望が出された。王占華理事が中国語学会支部例会との合同例会の形で検討してみると述べた。

（２）第 6 回全国大会予告とシンポジウムテーマの募集

日 時：2008 年 6 月 7・8 日（土・日）

会 場：北九州市立大学（福岡県北九州市小倉 <http://www.kitakyu-u.ac.jp/>）

※大会初日 6 月 7 日（土）午後に特定のテーマに関するシンポジウムを計画しています。現在、下のようなテーマを検討していますが、会員からのご提案も広く募ります。皆様のアイデアを学会事務局（ch_teaching@yahoo.co.jp）までご連絡ください。

- 1) 「英語教育、中国語教育、日本語教育の教員による言語教育についての横断的討論」
- 2) 「第二言語としての中国語（CSL）教育と外国語としての中国語（CFL）教育」
- 3) 「第二言語教育としての中国語教育中の「糾錯」問題」
- 4) 「教材選定に関する討論」
- 5) 「評価方法に関する討論」
- 6) 「母語利用による直接法の問題」

（３）研究会・講演会のお知らせ、研究発表の募集

※各会場へのアクセス地図は学会ホームページをご覧ください。

☆関東地区 7 月研究会

日時 2007 年 7 月 21 日（土）午後 2 時から

場所 東京外国語大学研究講義棟 1 階 110 講義室（東京都府中市朝日町 3-11-1。JR 中央線武蔵境駅で西武多摩川線に乗換え、多磨駅下車、徒歩 5 分。京王線飛田給駅から京王バスで東京外国語大学前停留所下車、バス所要時間約 10 分）

発表 （１）苏英霞（東京外国語大学客員准教授）

「汉语词语教学中应注意的几个问题」

（２）伊藤大輔（東京外国語大学・非）

「叙実述語としての中国語感情形容詞」

（３）植村麻紀子

「初級で何をどう教えるかー構造・場面・機能 3 方面からのアプローチ」

☆関東地区 7 月講演会

日時 2007 年 7 月 22 日（日）午後 2 時から 4 時半まで

場所 国際文化会館（東京都港区六本木 5-11-16，電話 03-3470-4611；都営大江戸線麻布十番駅 7 番出口より徒歩 4 分，東京メトロ南北線麻布十番駅 4 番出口より徒歩 7 分，東京メトロ日比谷線六本木駅 3 番出口より徒歩 10 分）

共催 桜美林大学孔子学院

協力 高等学校中国語教育研究会、神奈川県高等学校中国語教育研究会

講演 (1) 北京大学 汉语语言学研究中心、中文系 陆俭明教授

《语法研究与语法教学》

(2) 北京大学 中文系 马真教授

《现代汉语虚词的教学问题》

☆関西地区7月講演会

日時 2007年7月31日(火)午後3時から5時半まで

場所 立命館大学大阪オフィス(地下鉄・京阪淀屋橋駅下車すぐ、島ビル6F)

共催 立命館孔子学院、日本関西地区中国漢語教師交流協会

講演 (1) 北京大学 汉语语言学研究中心、中文系 陆俭明教授

《语法研究与语法教学》

(2) 北京大学 中文系 马真教授

《现代汉语虚词的教学问题》

★関東地区研究会、関西地区研究会、九州地区研究会の研究発表募集中!

関東地区研究会での研究発表を希望される会員は三宅登之研究室(代表理事、東京外国語大学:tmiyake@tufs.ac.jp)まで、関西地区研究会での研究発表を希望される会員は事務局(ch_teaching@yahoo.co.jp)まで、九州地区研究会での研究発表を希望される会員は王占華研究室(理事、北九州市立大学:ousenka@kitakyu-u.ac.jp)まで、それぞれご連絡ください。

◎関東地区研究会日程(予定、会場はいずれも未定)

2007年10月13日(土)、11月24日(土)、12月22日(土)、

2008年1月12日(土)、2月23日(土)。

◎関西地区研究会日程(予定、会場未定)

2007年11月10日(土)、2008年3月15日(土)。

◎九州地区研究会日程は11月か12月の予定、会場は未定。

(4)「第八屆世界華語文教學研討會」参加報告 西 香織(北九州市立大学)

三年に一度、世界華語文教育学会(<http://www.wcla.org.tw/>)の主催により台湾で開催される「世界華語文教學研討會」は今回八回目を迎え、2006年12月28日(木)から30日(土)までの三日間、台北市劍潭國際青年中心を会場に行われた。

学会期間中は、記念講演、論文発表、座談会、ポスター展示に加え、毎晩、盛大なパーティーが催される等、非常に充実した内容であった。また、希望する海外からの参加者には、学会終了後、二泊三日の台湾中部地方への旅行も用意されていた(ただし費用は自己負担)。

まず、28日(木)の午前中に開幕式が行われ、その後、王士元先生(香港城市大学・UCLA Berkeley)及び古川裕先生(大阪外国語大学)による記念講演が行われた。午後には早速、4つの会場に分かれての論文発表が行われた。特記すべきは、この日の晩に行

われた歓迎パーティーの席で世界華語文教育学会と我が中国語教育学会との間で友好交流の備忘録が交わされたことである。古川裕・本学会会長が日本の中国語教育の現状について講演された際にも会場から多くの質問が飛び、日本の中国語教育の現状に大きな関心が寄せられていることが肌で感じ取れたが、この備忘録の取り交わしにより中国語教育学会の知名度は格段に高まったように思う。

29日（金）も一日、分科会ごとに論文発表があり、最終日の30日（土）には、陸俊明先生（北京大学）、戴浩一先生（台湾中正大学）による講演のほか、2つの座談会が用意されていた。そして、出席者の顔にやや疲労の色が見え隠れする頃、無事に閉幕を迎えた。

主催者側の資料によると、当初は22カ国から470人（論文数は338本）の発表応募があり、審査の結果、72本が論文発表として、42本がポスター発表として採用されたとのことである。日本から参加した（講演者を含む）発表者はわずかに7名であり、年末の忙しい時期と重なり敬遠されたのか、台湾から地理的に近い日本からの参加者が少なかったのは少し意外であり残念でもあった。

私は今回が初めての参加であったが、今回出席したことでさまざまな国の学者と交流ができ、各国の中国語教育の現況を知る機会にも恵まれ、大いに啓発を受けた。また、それと同時に、中国語がもはや「中国人の話す言葉」ととどまらないことを実感した。今回の学会の中で、何度となく「第二言語としての中国語（CSL）」教育と「外国語としての中国語（CFL）」教育を分けて考えるべきだという意見が出た。英語教育や日本語教育の世界ではもうずいぶん前から言われているが、ここに来てようやく中国語教育の世界でもその違いの重要性が訴えられるようになってきた。これはとりもなおさず、中国語が多様化しているということである。日本の中国語教育においても、今後、CSLとCFLの違いを踏まえた上で教材やシラバス等を作成していく必要があるであろう。世界的な中国語ブームの中、ブームに乗ることも重要であるが、ブームだけで終わらせないために、今、私たちに何ができるか、私たちは何をすべきかを問われた刺激的な学会であった。

（5）会員名簿作成のためのデータ提出のお願い

今年度秋に郵便投票による役員選挙を行なうため、会員名簿の整備作成を予定しております。ついては、近日中に名簿作成のために必要なデータ提出のお願いを名簿作成業者からお送りしますので、返答につきご協力をお願いいたします。

（6）事務局からのお願い

・2007年度会費未納の方は、同封の振込用紙により会費入金をお願い致します。なお、今回の会費納入から振込手数料は会員負担とすることが会員総会において決まりましたので、ご理解とご協力をお願いいたします。本会報と入れ違いに納入いただいた場合には、再請求の失礼をお許してください。

・郵便物が住所不明で事務局に戻ってくる場合があります。住所変更、勤務先変更などの場合、事務局にもご一報ください。

・中国語の教育・研究にかかわる研究会やスピーチコンテストなどの催しがある時は、ぜひとも事務局にご一報ください。学会ホームページ（<http://www.jacle.org/>）において広く通知させていただきます。